中国残留日本人支援団体　尼崎日本語教室

かけはし
コスモスの会だより
第９号
2015. 5. 10

編集発行：コスモスの会広報部　〒661-0953　尼崎市東園田町4丁目 152-16　TEL：06-6493-5563
FAX：06-6493-0817
コスモスの会ホームページ・URL=http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/index.html

みんなで頑張った学習発表会

朗読劇を演じるバラグループ（撮影 三沢 亜紀さん）

学習発表会の感想

朝よい天気でした。でも体調は悪かった。熱も有り、計ったら37度7分で、やはりしんどかった。すこし早めに行って、会場づくりを手伝った。

バラ組の発表にすこし緊張しましたが、おちついてよめました。まちがえなかったです。みんなも上手によめました。家でも練習したからです。これからもがんばります。

（バラグループ：篦和雄）

尼崎日本語教室
みんなの発表会
王玉芝さんの発表（撮影 三沢 亜紀さん）

3月31日、中央公民館3階小ホールにおいて、第6回目の学習発表会が開催されました。80人あまりが見守る中、学習者たちは緊張しながらも一年間の学習の成果をしっかりと発表しました。

いろいろな表現法

牡丹グループ

3つの班に分かれて発表しました。最初の「自分の作文」は、何度も書き直して精いっぱい自己表現しました。次の「笑い話」は、言葉だけでは面白さが伝わりにくいので、小道具も用いて懸命に演技をしました。最後の「リハビリ風景」は、日頃の体験を動作で表現し、日本語と中国語で説明しました。

発表が3グループのトップだったのでとても緊張していましたが、発表後、安堵とちょっぴり自信がついたようです。

文化交流教室の作品展示

すてきな宝物がいっぱい！

梅グループ

「私の宝物」というテーマで作文を書き、発表しました。現物やパワーポイントの映像で一人一人説明しました。時計・額縁・宝飾品など、子どもや友人からのプレゼントや、家族で撮った写真、教室に来て日本語を勉強していることなど、様々な宝物が紹介されました。それらには、「心のよりどころ」といった想いが込められていました。多くの人の前で発表したことは、自信にもつながったのではないでしょうか。

全部日本語でできた！

バラグループ

朗読劇「わたしたち、なに人ですか？」に挑戦しました。これは、祖母や母親の「日本語」がおかしいことに疑問を持つ孫娘たちに、その理由を説明する祖母や、やはり孤児で近所に住むおじいちゃんとの会話、そして実際の孤児の体験談で構成されています。彼らにとって自分自身の人生を語ることに、勇気と努力が必要だったと思いますが、大きな声でしっかりと語ることができました。今回、台詞の全てを日本語で発表できたことで、学習者自身、大きな喜びを感じていました。

清らかな調べ♪

コンサート

今年は、高橋悠香さん（フルート）と田中さおりさん（ピアノ）をゲストにお招きし、「Let it go」など4曲を演奏していただきました。フルートの美しい音色に、会場はしばし安らかな癒しの空間となりました。

尼崎日本語教室
みんなの発表会
高橋悠香さんと田中さおりさんの演奏

回を重ねるごとに、他の人の発表にも静かに耳を傾けることができるようになったことは、学習発表会の成功につながったと言えましょう。

（田中いずみ）

スタッフの横顔

尼崎日本語教室設立以前から中国残留孤児の支援を続けられている石井敏子さんをその座右の銘とともに紹介します。

飄々としていて、個性的で、自分の世界観をしっかり持っている。そんな石井敏子さんは、尼崎日本語教室ができた2008年の5月20日、高橋さんに誘われて初めてこの教室に来ました。中国語を習い始めて数年、中国へも20回を超える旅をし、そろそろ何かをやりたいと考えていたのです。

「敏於事而慎於言」
（事に敏にして言に慎む）

思い立ったら、すぐさま行動する、但し軽はずみに余計なことは言わない。ボランティアといえども、何の勉強もしないで教えるのは失礼だと考え、「2008年度日本語学習支援者養成講座」を受講しました。そして初日に学習者と交わした一言が、現在に至る原動力となっています。

日本語学習を支援する石井さん（中央）

「破事在得意之日」
（事の破るるは得意の日）

得意の時は油断をする。むしろ逆境のときこそ、チャンスであり成功へつながる。常に学習者の必要に寄り添う石井さんは、深慮とともにあせらずゆっくり、淡々と学習に取り組み、学習者との交流を心から楽しんでいます。

「量から質への転化」

毎朝5時から摩耶山の5合目あたりまでのぼり、ラジオ体操をして7時前後に帰宅する石井さん。この継続が健康維持につながり、遠方にもかかわらず、教室の出席状況はボランティア一です。また、10才頃から創り続けた多数の「短歌」は主に報告詠で、今やその腕前はさながら百人一首歌人「伊勢大輔」のようです。そして生涯の糧となっています。

「旅する事は生きること」

今も旅を続け、決して偏狭にならず視野を広げることで、何が一番大切なのかということを体認している人だと感じました。「健康」や「短歌」はその当然の結果・結晶なのでしょう。

「まだまだ一般社会では残留孤児のことは知らない人が多い。コスモスの会が『かけはし』となって、つないでいかなければならないと思う」と石井さん。

常に手の届く少し上を目指して、残生を過ごすこと、学習者の残生をも豊かにするために、微力ながらできることを探っていきたいと、明るく語ってくれました。

（聞き手　田中いずみ）

頑張る二世たち

中国と日本で家族を支えて
下平淑子さん

梅グループの下平淑子（しもだいらよしこ）さんは1953年、瀋陽で残留婦人となった母と中国人の父との間に生まれた。敗戦の厳しい状況下で生き抜いてきた母は、その後病気になり寝込むようになった。それで淑子さんが、わずか8歳の頃から家族の面倒をみてきた。学校から帰ると掃除、洗濯、買物、食事の支度と休む間もなく働き、そのうえ母の看病をした。そのため、家事は手際よく、特に料理が得意である。

コスモスの会の料理番

ここコスモスの会でも新年交流会や市民まつりの餃子作りなどの時、みんなの指揮をとって活躍し、おかげで調理はスムーズに運び成功した。

料理のメニューも買い物も担当

職場で一生懸命に

淑子さんは90年、37歳の時、家族と日本に帰って来た。当時日本語がまったく話せない中、真面目に働き続け、2年前に定年となった。持前の明るさとバイタリティーで日本語の習得も早く、1人でも困らない。

ご主人の介護

最近ご主人が頸椎の手術をして、食事や入浴に介助が必要となった。淑子さんは自身も辛い病気を持ちながら、ご主人をやさしく介護している。

出会いを大切に

残留邦人2世として苦労も多かったが中国の幼なじみや日本に来てからの友人などまわりの人に助けられて乗り越えてきた。

これからはもっとゆっくりと定年後の生活を楽しんで過ごして下さい！

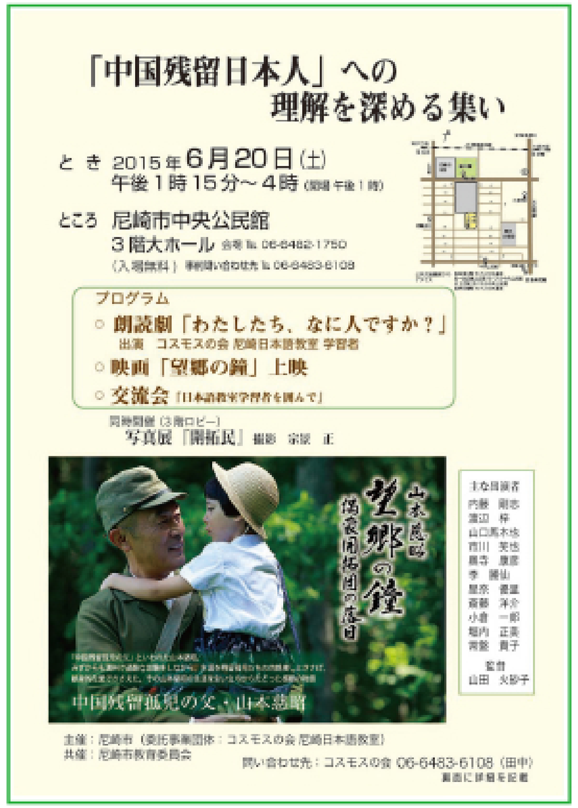
（聞き手　吉村清美）

編集後記

ゴールデンウィークも終わりやっと「かけはし9号」が完成。余裕をもって編集計画を立てたものの、予定通りに進まず、今回も発行期限ぎりぎりとなった。

ところで、今年度の新事業として、『「中国残留日本人」への理解を深める集い』（右欄参照）を計画しました。6月20日（土）午後1時15分から尼崎市中央公民館で開催します。コスモスの会の学習者が発表する朗読劇「わたしたち、なに人ですか？」と、映画「望郷の鐘－満蒙開拓団の落日－」を上映します。ロビーでは兵庫県旧養父郡から送出された満州開拓団を取材した写真展を開催します。いずれも入場無料です。

皆さんお誘い合わせの上ご参加ください。　（T）


山本慈昭
望郷の鐘
満蒙開拓団の落日
中国残留孤児の父・山本慈昭
主な出演者
内藤 剛志
渡辺 梓
山口馬木也
常盤 貴子
監督
山田 火砂子

「中国残留日本人」への
理解を深める集い

とき　2015年6月20日(土)
午後1時15分～4時（開場 午後1時）

ところ　尼崎市中央公民館
3階大ホール　会場 ℡ 06-6482-1750
（入場無料）　事前問い合わせ先 ℡ 06-6483-6108

プログラム
- ○ 朗読劇「わたしたち、なに人ですか？」　出演　コスモスの会 尼崎日本語教室 学習者
- ○ 映画「望郷の鐘」上映
- ○ 交流会［日本語教室学習者を囲んで］

同時開催（3階ロビー）
写真展「開拓民」撮影　宗景　正

主催：尼崎市（委託事業団体：コスモスの会 尼崎日本語教室）
共催：尼崎市教育委員会
問い合わせ先：コスモスの会 06-6483-6108（田中）
裏面に詳細を記載